

《令和七年度暗唱⑥》

ある日ある時

黒田三郎

秋の空が 青く美しいという

ただそれだけで

何かしら いいことがありそうな気のする

そんなときは ないか

空高く 噴き上げては

むなしく 地に落ちる 噴水の水も

わびしく梢をはなれる 一枚の落ち葉さえ

何かしら 喜びに踊っているように見える

そんなときが

